

官報

號外

明治三十八年一月二十五日

水曜日

印刷局

○第二十二回衆議院議事速記録第十號

帝國議會

明治三十八年一月二十四日(火曜日)午後一時七分開議

議事日程 第九號 明治三十八年一月二十四日(火曜日)

午後一時開議

- 第一 古物商取締法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第三 質屋取締法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第五 罹災救助基金法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第七 北海道罹災救助基金法案(政府提出) 第一讀會
- 第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第九 市町村立小學校教育費國庫補助法及教育基金令ニ依ル沖繩縣ノ配賦金及配當金ノ仕拂殘額ヲ翌年度ニ繰越使用ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十一 遠洋漁業獎勵法改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十三 巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十五 明治三十五年法律第二十九號中改正法律案(政府提出) 第一讀會
- 第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉 第一讀會
- 第十七 明治三十七年勅令第百七十七號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出) (委員長報告)
- 第十八 明治三十七年勅令第二百二十五號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出) (委員長報告)
- 第十九 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造ニ關スル法律案(花井卓藏外一名提出) 第一讀會
- 第二十 俘虜刑罰法案(花井卓藏外四名提出) 第一讀會
- 第二十一 外國ニ於テノ流通スル硬貨紙幣銀行券及帝國官府發行ノ證券偽造變造及模造ニ關スル法律案(鳩山和夫外一名提出) 第一讀會
- 第二十二 俘虜處罰ニ關スル法律案(元田肇外一名提出) 第一讀會

○議長(松田正久君) 開會致シマス、諸君、本月六日本院ノ議決ニ係ル上奏案ハ、翌七日午前十時三十分參内ノ上、宮内大臣ヲ經テ、捧呈致シマシタルコロ、龍顏麗シク御受納アラセラルタル旨、宮内大臣ヨリ承聞致シマシタ、又同日ノ決議案ハ、陸軍大臣ニ托シテ旅順攻圍軍ニ傳達ヲ致シマシタ、此段御報告ニ及ヒマス
(拍手起ル)

○議長(松田正久君) 諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

新潟縣新潟市選出議員白勢春三君當選無効ノ判決確定セラレ其補闕トシテ丸山嵯峨一郎君當選セラレタリ
福島縣郡部選出議員唐橋左源次君死去セラレ其補闕トシテ野木善三郎君當選セラレタリ
議員唐橋左源次君本月二日死去ニ付議長ハ例ニ依リ遺族宛左ノ弔詞ヲ贈レリ
衆議院ハ議員唐橋左源次君ノ長逝ヲ追悼シ恭ク弔詞ヲ呈ス
政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

古物商取締法中改正法律案

質屋取締法中改正法律案

地租條例中改正法律案

罹災救助基金法中改正法律案

北海道一級町村及二級町村ヲシテ租稅外國庫藏入ヲ徵收セシムル法律案

所得稅法中改正法律案

輸入原料砂糖糖戻稅法中改正法律案

砂糖消費稅法中改正法律案

賣藥稅法案

不動產登記法中改正法律案

市町村立小學校教育費國庫補助法及教育基金令ニ依ル沖繩縣ノ配賦金及配當金ノ仕拂殘額ヲ翌年度ニ繰越使用ニ關スル法律案

遠洋漁業獎勵法改正法律案

巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

明治三十五年法律第二十九號中改正法律案

(特第二號)明治三十七年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

明治三十四年度歲入歲出總決算

明治三十四年度各特別會計歲入歲出決算

明治三十四年度歲入歲出決算檢査報告

明治三十四年度歲入歲出總決算

明治三十五年度各特別會計歲入歲出決算

明治三十五年度歲入歲出決算檢査報告

明治三十五年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

明治三十五年度豫備金支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

明治三十五年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件(承諾ヲ求ムル件)

官報號外

明治三十八年一月二十五日(三月三十一日第三種郵便物認可)

衆議院議事速記録第十號 議長ノ報告

一二三

明治三十五年度特別會計豫備金支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)
明治三十五年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)

明治三十五年度清國事件第二豫備金支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)

明治三十六年度豫備金支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)

明治三十六年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)

明治三十六年度特別會計豫備金支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)

明治三十六年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)

明治三十六年度清國事件第二豫備金支出ノ件 (承諾ヲ求ムル件)

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

外國ニ於テノ流通スル硬貨紙幣銀行券及帝國官府發行ノ證券偽造變造及模造ニ關スル法律案

提出者 鳩山 和夫君 元田 肇君

俘虜處罰ニ關スル法律案

提出者 元田 肇君 鳩山 和夫君

海外移民保護ニ關スル建議案

提出者 吉植庄一郎君

貴族院ハ明治三十七年十二月二十九日ヨリ明治三十八年一月二十日マテ休會ノ旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

貴族院ハ政府提出明治三十八年度歳入歳出總算案並明治三十八年度各特別會計歳入歳出豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、臨時軍事費豫算追加案、明治三十八年度歳入歳出總算追加案 (第一號) 明治三十七年度歳入歳出總算追加案 (第一號)、明治三十七年度各特別會計歳入歳出豫算追加案 (特第一號)、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件 (追第二號)、相續稅法案、登錄稅法中改正法律案、非常特別稅法中改正法律案、酒造稅法中改正法律案、酒精及酒精含有飲料稅法中改正法律案、麥酒稅法中改正法律案、沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案、酒母、醱及醱取締結法案、酒造組合法案、關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律案ヲ可決シ及本院提出商業會議所法中改正法律案ニ對シテハ第二讀會ヲ開カサルコトヲ議決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

委員長理事左ノ通牒選セラレタリ

上奏案外一件

委員長 大石 正己君

國本培養ニ關スル建議案

委員長 中倉 萬次郎君

國有土地森林原野下辰申請期間ニ關スル法律案

委員長 井上 甚太郎君

中澤楠瀨太君去月二十九日ヨリ二十一日間山下重威君同日ヨリ本月二十二日迄加藤政之助君降旗元太郎君井上精一郎君本月十七日ヨリ四週間武藤金吉君本月二十日ヨリ一月二日迄山本繁造君本月十八日ヨリ二週間橫山寅一郎君本月一日ヨリ四週間就モ病氣ノ故ヲ以テ請暇申出ラレタル處休會中ナリシヲ以テ議長ハ先例ニ依リ之ヲ許可セリ

○議長 (松田正久君) 茲ニ御諮リヲ致シマスガ、議員脇榮太郎君、石田孝吉君ハ昨二十三ヨリ、又武市庫太君及安部勇治君ハ今二十四ヨリ、共二病氣ノタメ二週間請暇ノ儀ノ申出ガゴザリマシタ、諸君ニ御異議ガナケレバ許可スルコトニ致シマス

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長 (松田正久君) 然ラバ請暇ノ件ヲ許可致シマス、尙鑛業法案委員會ヲ、本日午後引續キテ開キタイト申スコトデアリマスカラ、右委員會ニ退場ヲ許シテ差支ゴザイマセマカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長 (松田正久君) 然ラバ退場ヲ許スコトニ致シマス——是ヨリ議事日程ニ入ルベキデアリマスガ、豫算委員會長ヨリ三十七年度各特別會計歳入歳出豫算追加ノ委員會ノ報告ヲ致シタイト申スコトデアリマスカラ、其報告ヲ致シマス——栗原亮一君

〔栗原亮一君登壇〕

○栗原亮一君 (五十九番) 三十七年度ノ特別會計ノ追加豫算第二號、是ガ新年ニナリマシタカラ提出ニナシタルデアリマス、實ハ昨年モ餘程追加豫算ガ多クアリマシタカラシテ、政府ノ方ヘモ確メマシタ、追加豫算ハ成ベク政府ノ方デモ慎重デハ貴ヒタイ、是マデハ致方ハナイガ、モウ是デ追加豫算ハ無イカト云フコトヲ確メタノデアリマシタガ、先ヅ政府ハ是デナイ積リデアルト云フコトデアリマシタケレドモ、必要上此追加豫算ガ提出ニナシタルデアリマス、ソレデ昨日モ今日モ、委員會ニ於キマシテハ、ドウ云フ譯デ追加豫算ヲ出サネバナラヌコトニナシタルデアリカト云フコト、又此本案ノ内容ニ就キマシテモ、種種質議討論ヲ盡シマシタルデアリマス、此案ハ御手許ニ同ジテ居ル通ニ陸軍省所管ニ於ケル東京砲兵工廠ノ經費デアリマス、是ハ歳入歳出金額ガ同ジコトデアリマスガ、九百八十四萬圓ト、ソレカラ大阪ノ砲兵工廠ニ於ケルノガ百八十三萬圓餘デ、此追加豫算ヲ本年ニナシテ出サネバナラヌニ至ツタト云フモノハ、大ニ戰局ノ發展ニ因リ是迄ノ豫定シタルコロノ金額ニ於テハ、兵器ノ製造ニ於テ大ニ不足ヲ告ゲタルデアル、ドウシテモ、是ハ必要上、此場合ニ於テ協賛ヲ求メザルヲ得ヌ譯デアリカラ是ダケニ限ラズ、已ムコトヲ得ズ提出ヲシタルデアルト云フコトデアリマス、是ニ就キマシテハ今度ノ戰爭ニ於テ大砲ノ實驗ナドモ出來マシタカラ、是等ノ進歩改良ノコトニ付イテハ、イロ／＼質議モ起リ注意モアリマシタ、又是ニ對シテ秘密會ヲ開イテ、當局者カラシテ十分ナル説明モアツタデアリマス、要スルコトコト本案ニ付キマシテハ、時局上已ムヲ得ヌモノデアルト云フコトヲ、全會一致デ、委員會ニ於テ認メタ譯デアリマス、此段大略ヲ御報告致シ、併セテ是ハ餘程緊急ノ趣デアリマス、成ベク委員會ノ決議ニ賛成アラントヲ希望致スノデアリマス、尙一ツ申シテ置キマスガ、此場合日程ヲ變更シテ本案ヲ議スルコトニ致シタイデアリマス

○議長 (松田正久君) 唯今豫算委員會長ヨリ、議事日程ヲ變更シテ、本追加豫算ヲ議シタイト云フ請求デアリマスガ、御異議ハアリマセマカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長 (松田正久君) 御異議ガナケレバ、日程ヲ變更シテ、直チニ討論ニ附スルコトニ致シマス、追加豫算ノ全部ヲ議題ニ供シマス

〔特第二號 明治三十七年度歳入歳出總算追加案

○谷澤龍藏君 (二百七十一番) 委員長デモ政府委員會デモ宜シイガ、チヨット質問致シタイ、此職工人足給デアリマスガ、本案ノ支出ニ付イテハ、異議ハアリマセマカ、職工人足給ト云フモノハ、ドンナ案排ニ政府ハ仕拂テ居ルカ、聞クトコロニ依レバ一人一日八

十錢トカ云フコトアルガ、其請負ヲナス者ハ、十五日位デ以テ、五六百圓ノ金ヲ取ルト云フコトヲ聞イテ居ル、危險ナル仕事ト云ヒナガラ、其間餘程投機ノ仕事ヲスルヤウナコトニナデハ、甚ダ遺憾ナコトデアリマシテ、ドウ云フ案排ニ給料ヲ仕拂ッテ居ルカ、請負ハシテアル者ハドウ云フ標準ニシテアルカ伺ヒタイ、本會ニ於テ餘リ答辯ガ仕舞イト云フコトアレバ、書面デモ宜シイガ、餘程其點ニ付イテ注意ヲ願ヒタイ、御答ガ出來レバ御答ヲ願ヒタイガ、御答ガ出來ヌナラハ十分注意ヲシテ戴キタイ

○政府委員(外松孫太郎君) 唯今ノ御質問ニ對シテハ、書面デ差上ゲタ方が宜カラウト思ヒマスカラ、書面デ差上ゲルコトニ致シマス

○議長(松田正久君) 豫算委員長ノ報告通異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 然ラバ追加豫算ノ全部、豫算委員長ノ報告通り決定致シマス——是ヨリ議事日程第一即チ古物商取締法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第一 古物商取締法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

古物商取締法中左ノ通改正ス

附則

本法ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○政府委員(山縣伊三郎君) 此古物商取締法ノ御承知ノ通是マデ沖繩縣ニハ之ヲ施行シテ居リマセヌデアリマス、然ルニ近時沖繩縣ニ於ケル景況ハ大ニ違ッテ參リマシテ、此營業者ノ數モ大ニ増スコトニナツテ來マシテ、此法律ヲ施行スルニアラザレバ、到底取締ノ目的ヲ達スルコトガ出來マセヌノデ、此改正ヲ要スル次第デアリマス、ドウゾ宜シク御協賛アラントヲ願ヒマス

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ次ノ日程ニ移リマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百五十九番) 本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ願ヒマス

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議、議長指名ノ九名ノ委員ニ付託シタイト云フコトデアリマスガ、異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 異議ガ無ケレバ、右ノ如ク決定致シマス、次ハ日程ノ第三質屋取締法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第三 質屋取締法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

質屋取締法中左ノ通改正ス

附則

本法ハ明治三十八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

○政府委員(山縣伊三郎君) 此質屋取締法モ唯今古物商取締法ニ付イテ理由ヲ述べタト同一ノコトデアリマシテ、是亦取締上ノ必要ヨリ改正ヲ要スル次第デアリマス、ドウゾ……

○議長(松田正久君) 發言者ガ無ケレバ議事日程ノ第四ニ移リマス

第四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百五十九番) 本案ハ前ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

〔贊成々々ノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議、前ノ委員ニ付託スルト云フ、之ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 然ラバ前委員ニ付託スルコトニ致シマス——議事日程ノ第五

○議長(松田正久君) 然ラバ前委員ニ付託スルコトニ致シマス——議事日程ノ第五

○議長(松田正久君) 然ラバ前委員ニ付託スルコトニ致シマス——議事日程ノ第五

第五 罹災救助基金法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

罹災救助基金法中左ノ通改正ス

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

内務大臣及大藏大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ罹災救助基金ノ管理方法ヲ指定スルコトヲ得

第十七條ノ二 第三條ノ制限額以上ニ達シタル府縣ハ其ノ年度初ノ超過額二分ノ一ヲ限リ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケ十箇年以内ノ期限ヲ以テ府縣ノ災害土木費其ノ他ノ事業費ヘ利付ニテ貸出ヲ爲スコトヲ得

○議長(松田正久君) 發言者ガ無ケレバ議事日程ノ第六ニ移リマス

第六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百五十九番) 是ハ九名ノ議長指名ノ委員ニ付託スルコトニ願ヒマス

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議、議長指名ノ九名ノ委員ニ付託シタイト云フ、之ニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○議長(松田正久君) 御異議ガ無ケレバ右ノ如ク決定致シマス、次ハ議事日程ノ第七北海道罹災救助基金法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第七 北海道罹災救助基金法案(政府提出) 第一讀會

第一條 北海道地方費ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金ノ最少額ハ百萬圓トス

前項ノ金額ニ達シタル年度ヨリ遡リ十箇年間ニ本法ニ依リ支出シタル救助費平均年額ノ二十倍ノ金額カ前項ノ金額ヨリ多キトキハ其ノ金額ヲ以テ最少額トス但シ支出額ノ最高及最低年度ハ平均計算ニ加ヘス

第二條 北海道罹災救助基金ノ積立額ハ毎年度北海道地方費豫算ヲ以テ之ヲ定ム但シ二萬圓ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 國庫ハ北海道罹災救助基金ノ補助トシテ本法施行ノ初年度ニ於テ一萬圓ヲ交付ス

前項ノ外國庫ハ北海道罹災救助基金ノ補助トシテ第一條ノ制限額ニ達スル迄毎年度地方稅ヲ以テ積立ツル金額ノ二分ノ一ヲ交付ス但シ二萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條 本法ニ規定スルモノヲ除クノ外北海道罹災救助基金ニハ罹災救助基金法ヲ準用ス但シ同法中府縣會トアルハ北海道會、市町村トアルハ區町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

町村ニ該當ス

附則

第五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ四十箇年度間之ヲ施行ス

第六條 従來北海道ニ於テ災害救助ノ爲國庫ヨリ支出シタル貸與金ハ北海道地方費ニ歸屬ス

前項ノ貸與金ニシテ返納ヲ受ケタルトキハ北海道罹災救助基金ニ編入ス

(「説明ハアリマセカ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 發言ノ請求者ナケレバ、議事日程ノ第八ニ移リマス

第八 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百九十五番) 是ハ前ノ委員ニ付託セラレシコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議ノ如ク、前ノ委員ニ付託スルト云フニ、御異議アリマセカ

(「異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(松田正久君) 異議ガナケレバ、右ノ如クニ決定致シマス——次ハ議事日程ノ第九ニ移リマス、朗讀ハ省略致シマス

第九 市町村立小學校教育費國庫補助法及教育基金

令ニ依ル沖繩縣ノ配賦金及配當金ノ仕拂殘額ヲ 第一讀會

市町村立小學校教育費國庫補助法及教育基金令ニ依ル沖繩縣ノ配賦金及配當金ハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ順次翌年度ニ繰越使用スルコトヲ得

本法ハ明治三十七年度分ヨリ之ヲ適用ス

(政府委員澤柳政太郎君登壇)

○政府委員澤柳政太郎君 市町村立小學校教育費國庫補助法及教育基金令ニ依ル府縣ノ配賦金及配當金ハ、府縣ニ於テハ特別會計ヲ設ケマシテ、若シ殘餘ガアタリ時ハ、之ヲ蓄積シテ、次ノ年ニ使用スルコトニテ居リマスガ、沖繩縣ニハ未ダ府縣制ヲ施行セヌ結果、配賦金配當金ハ文部大臣ガ管理シ、殘餘アル時ハ、一般ノ會計ニ繰入レルト云フコトニテ居リマスガ、之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトニシタイト云フ、詰リ各府縣ナミニ近寄セタイト云フ法案アリマス、成ベク御協賛アラント希望致シマス

○議長(松田正久君) 發言者無ケレバ日程ノ第十二ニ移リマス

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百五十九番) 議長指名ノ九名ノ特別委員ニ願ヒマス

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議ノ如ク、議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フニ御異議アリマセカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、右ノ通ニ決定致シマス——議事日程ノ第十一遠洋漁業獎勵法改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第十一 遠洋漁業獎勵法改正法律案(政府提出)

第一讀會

遠洋漁業獎勵法

第一條 遠洋漁業ヲ獎勵スル爲國庫ハ毎年度十五萬圓以內ヲ支出ス

第二條 本法ニ依リ獎勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員又ハ株主トシテ帝國法律ニ從ヒ設立シタル法人ニ限ル

第三條 主務大臣ハ遠洋漁船検査規程ニ適合シタル日本船舶ヲ以テ遠洋ニ於ケル漁獲業又ハ漁獲物ノ處理運搬業ニ從事スル者ニ對シ其ノ業務ノ種類、場所、期間並船舶ノ構造、噸數及年齡ニ從ヒ率ヲ定メ五箇年ヲ超エサル期間ニ於テ漁業獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ一箇年ノ定額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 汽船總噸數每一噸 二十二圓

一 帆船總噸數每一噸 十八圓

前項ニ掲ケタル船舶ノ船員ハ其ノ五分ノ四以上帝國臣民タルコトヲ要ス

第四條 主務大臣ハ前條ニ依リ獎勵金ヲ受クヘキ漁船乗組ノ漁獲業ニ對シ漁獲業ノ種類、場所及期間ニ從ヒ率ヲ定メ漁獲業獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ一箇年ノ定額ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 漁船長每一人 七十二圓

一 漁船手每一人 三十六圓

一 漁船夫每一人 十二圓

第五條 主務大臣ハ豫メ認可シタル方法及設計ニ依リ遠洋漁船検査規程ニ定ムル構造ニ適合シタル日本船舶ヲ製造シ若ハ製造セシメ又ハ日本船舶ニ新造ノ機關ヲ据附ケ若ハ据附ケシタル船舶所有者ニ對シ其ノ噸數、馬力ニ從ヒ率ヲ定メ漁船獎勵金ヲ下付スルコトヲ得但シ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一 船體總噸數每一噸 四十圓

一 蒸汽機關馬力每一馬力 三十五圓

一 石油發動機關純馬力每一馬力 三十圓

第六條 獎勵金ヲ下付スルコトヲ得ヘキ漁獲業ノ種類、船舶ノ噸數ノ制限並漁獲業ノ資格及定員ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム漁獲業ノ種類ニ依リ其ノ漁獲場所ヲ制限スルノ必要アルトキ亦同シ

遠洋漁船検査規程ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條 漁業獎勵金ヲ受クヘキ漁獲業者又ハ漁獲物處理運搬業者毎業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキハ其ノ期間ニ對シ獎勵金ヲ下付セズ但シ船舶ノ沈没、破壊若ハ行衛不明又ハ自己ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ業務ニ從事スルコト能ハサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

魚獵業獎勵金ヲ受クヘキ漁獵員毎業務期間ニ於テ其ノ業務ニ從事スルコト業務期間ノ四分ノ三ニ滿タサルトキ又ハ出漁中其ノ船舶ヲ去リタルトキハ其ノ期間ニ對シ獎勵金ヲ下付セズ但シ業務中死亡シ又ハ故意若ハ重大ナル過失ニ因リ非シテ傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルトキ及前項但書ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ受ケタル日ヨリ五箇年間之ヲ外國人ニ讓渡、貸付又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ既ニ受ケタル漁船獎勵金ヲ償還シタルトキ、天災其ノ他抗拒スヘカラサル強制ニ因リ航行ニ堪ヘサルニ至リタルトキ又ハ主務大臣ノ

許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ其ノ獎勵金ヲ

受ケタル日ヨリ五箇年間主務大臣ニ於テ正當ノ事由ニ因リ已ムヲ得サル

モノト認ムル場合ヲ除クノ外毎年業務期間ノ四分ノ三以上遠洋ニ於ケル

漁獲又ハ漁獲物處理運搬ノ爲メ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ要ス

第十條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受ケタル船舶ノ所有者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶

ノ所有者及其ノ承繼人ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ及漁業獎

勵金ヲ受ケタル者ノ使用スル船舶又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル船舶ニ遠洋漁

業練習生ヲ乗組マシムルコトヲ得

第十一條 遠洋漁業ノ指導、監督及遠洋漁業練習生養成ノ爲必要ナル費用

ハ第一條ノ金額ヨリ支出シ之ニ充ツルコトヲ得其ノ費額ハ豫算ヲ以テ之

ヲ定ム

第十二條 主務大臣ハ漁業獎勵金ヲ受ケタル者又ハ漁船獎勵金ヲ受ケタル者

及其ノ承繼人ノ業務ヲ監督シ之カ爲必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲ス

コトヲ得

第十三條 主務大臣ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ又

ハ主務大臣ノ命令ニ從ハサル者ニ對シ獎勵金ノ下付ヲ廢止スルコトヲ得

第十四條 詐偽ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者又ハ第八條ノ規定ニ違反

シタル者ハ三年以下ノ重禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯サルトシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷

ス

第十五條 主務大臣ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ獎勵金ヲ受ケタル者ニ對シテハ其

ノ因テ得タル金額第八條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ニ對シテハ其

ノ既ニ受ケタル金額ヲ償還セシムヘシ

前項ノ償還金ハ國稅徵收法ノ規定ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

主務大臣ハ前項ノ徵收金ニ付國稅ニ次キ先取特權ヲ有ス

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑

法ノ減輕、再犯加重及數罪併發ノ例ヲ用井ス

第十七條 當業者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キ

テ發スル命令ノ規定ニ依リ當業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ

適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テ

ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 當業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者

ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シ

タルトキハ自己ノ指揮ニ出サルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條 前二條ノ場合ニ於テハ禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十一條 本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ八箇年間之ヲ施行ス但シ本

法施行前ニ於テ獎勵金下付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ其ノ許可期間

受ケムトスル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ船舶検査法、船舶職員

法、船舶法及船員法ノ規定ヲ準用スルコトヲ得

（政府委員牧村眞君登壇）

○政府委員（牧村眞君） 遠洋漁業獎勵法ハ、明治三十年ニ發布セラレマシタノデア

リマス、其後今日ニ於キマシテ、實際ノ成績ヲ見マスルト、臘臘野漁業ハ確ニ成效ヲ致シ

タモノデゴザイマス、其他ノ遠洋漁業ニ於キマシテハ、今ニ著シキ發達ヲ見マセヌデ、是ハ

如何ナル原因デアラカト申シマスルト、詰ルトコト法律ノ不完備ナルトコロガアデ、其點ハ

先ズ是マデ遠洋漁業ニ獎勵金ヲ下付スルニハ、漁業ノ種類如何ニ拘ハラズ、總テ五十噸

以上若クハ三十噸以上ノ船舶ヲ以テアレバ、獎勵金ヲ付スルコトニテ居ルタメニ、發達ヲ

見マセヌデアリマス、ソレカラ又漁業船ハ一種特別ノモノデアリマス、是マデノ法律ニハ、漁

船ノ構造ノ規定ガナイタメニ、イロ／＼ノ漁船以外ノ船舶ヲ以テ、漁業ニ從事スルモノガア

ル、所ガ實際漁船ニ適當シテ居ラヌタメニ、是亦十分ナル發達ヲ見ヌト云フコトガアリマ

ス、其他些細ノコトハ、種々ゴザイマスガ、重ナル點ハ其ニツデアリマス、因テ其構造規定

ヲ設ケ、漁業ヲスルナラバ漁船ニ適當ナル船舶ヲ指ヘル、噸數ハ種類ニ應ジテ噸數ヲ定メル

ト云フコトニシタナラバ、今日ヨリモモトシ／＼漁船ガ増加シ、遠洋漁業ガ發達スルコト云フ

見込デ、此法律ノ全部ノ改正案ヲ提出致シマシタコトデゴザイマス、御審議ノ上協賛ヲ

與ヘラレシコトヲ望ミマス

○議長（松田正久君） 議事日程第十二移リマス

第十二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君（百五十九番） 是モ議長指名九名ノ委員ニ付託サレシコトヲ望ミマス

（贊成々々）ノ聲起ル

○議長（松田正久君） 恆松君ノ動議ノ如ク、九名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ、御異

議アリマセヌカ

（異議ナシト呼ブ者アリ）

○議長（松田正久君） 御異議ナケレバ右ノ如ク決定致シマス、次ハ第十三巡查看守

退隱料及遺族扶助料法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス

第十三 巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律 第一讀會

案（政府提出）

巡查看守退隱料及遺族扶助料法中左ノ通改正ス

第二十六條及第二十八條第二項中「海軍監獄看守」ノ下ニ「陸軍監獄看守」ヲ「衆

議院守衛」ノ下ニ「女監取締」ヲ加フ

第二十九條 陸軍會計官ニシテ陸軍監獄看守ノ職ヲ奉シ引續キ陸軍看守卒

ト爲リ引續キ陸軍監獄看守ト爲リタル者又ハ陸軍看守卒ヨリ陸軍監獄

看守ト爲リタル者ニ付テハ前在職中ノ年月數ヲ陸軍監獄看守ノ在職年月

數ニ通算ス但シ軍人恩給法ニ依リ免除恩給ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラ

ス

前項ニ依リ通算シタル會計卒及看守卒ノ在職年月數ハ官吏恩給法ニ依リ

在官年數及軍人恩給法ニ依リ服役年數ニハ之ヲ算入セス

附則
本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第二十九條ノ規定ハ明治三十四年八月一日以後本法施行以前ニ於テ退隱料、
扶助料若ハ一時金ヲ受ケ又ハ受ケヘキ事由ノ生シタル場合及勤續十年未滿

ニシテ在職中死亡シタル者アリタル場合ニモ之ヲ適用ス

前項ノ期間内ニ於テ既ニ一時金ヲ受ケタル者又ハ其ノ遺族ニシテ前項ニ依リ退隱料又ハ扶助料ヲ受ケタルキハ一時金ヲ返納セシム其ノ完納ニ至ル迄退隱料又ハ扶助料ヲ以テ返納金ニ充ツ

第二項ニ依リ退隱料、扶助料又ハ一時金ヲ請求シ得ヘキ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

女監取締ノ明治三十六年三月三十一日以前ニ於ケル勤績年數ハ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ニ規定スル勤績年數ニ非サルモノト看做ス

○議長(松田正久君) 説明ガナケレバ、第十四ニ移リマス

第十四 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百五十九番) 是モ九名ノ委員議長指名ヲ願ヒマス

○議長(松田正久君) 恆松君ノ動議ノ如ク、九名ノ委員ヲ議長ガ指名シテ、異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ右ノ如ク決定シマス、次ハ第十五明治三十五年法律第二十九號中改正法律案、第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス、石本政府委員

第十五 明治三十五年法律第二十九號中改正法律案 第一讀會

明治三十五年法律第二十九號中「臺灣ニ在勤スル巡查看守」ノ下ニ「陸軍監獄看守及陸軍警守」ヲ加フ

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員石本新六君登壇)

○政府委員(石本新六君) 此案ハ臺灣ニ奉職シテ居ル陸軍ノ警守、竝ニ監獄看守ニ、他ノ巡查同様ノ待遇ヲ與ヘタイト云フ簡單ノコトデゴザイマス

○議長(松田正久君) 議事日程第十六ニ移リマス

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君(百五十九番) 此案ハ前ノ巡查云々ト云フ案ノ委員ニ、付託サレシコトヲ望ミマス

○議長(松田正久君) 恆松君動議ノ如ク、前ノ委員ニ付託シテ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ右ノ如ク決定致シマス、次ニ第十七明治三十七年勅令第七十七號ヲ議題ニ供シマス、委員長ノ報告ガアリマス、遠藤良吉君

第十七 明治三十七年勅令第七十七號(承諾ヲ求ムル件)(政府提出)

(遠藤良吉君登壇)

○遠藤良吉君(百六十六番) 本員等ニ御付託ニナリマシタ勅令第七十七號ハ、數回質疑討論ノ結果、委員會ニ於テ多數ヲ以テ承諾ヲ與フベキモノト決定致シマシタ、因テ此段御報告致シマス

○花井卓藏君(三百七番) 政府委員ニ質問ガアリマス、第一ハ此勅令ノ下ニ於テ裁

判ヲサレタル案件ガ幾ツアデ、未ダ決定ヲ與ヘザル裁判繼續中ノ事件ガ何件アリマスカ
フ開キタイ、第二ハ此勅令ハ明治三十六年勅令第七十三號ヲ改正サレタモノナルカ、
此七十三號ニ依ルト、均シク同様ノ犯罪デアリナガラ、其刑期ハ何レモ一年以下、其罰
金ハ二百圓以下ト云フコトニナリテ居ル、僅ニ一年ノ月日ヲ閱シタ中ニ於テ、同様ノ犯
罪ニ關シテ、誠ニ輕罪中ニ於テモ輕キ罪ヲ犯シタ者ヲ俄ニ飛上ゲテ、輕懲役重懲役ノ
重罪ニ激變スルト云フ事情ガ、果シテアッタノデアルカナカッタノデアルカ、斯ク刑罰ヲ激變
シナケレバナラヌト云フ必要ナル緊急切迫ノ、憲法第八條ノ非常命令ヲ發セナケレバナ
ラヌト云フ必要ナル感シタコトガ、事實デアアルカ、ドウカラ聞キタイ、第三ハ此問題ニ關シテハ
本員ヨリ提出シテ居ル法律案ガアル、又鳩山和夫君、元田肇君ヨリ提出サレタ法律案
モアルガ、政府ハ人ノ生命身體自由ト云フモノヲ拘束スルニ、命令ニ依ラズシテ、法律ニ
依ラナケレバナラヌト云フコトヲ、認メナケレバナラヌト思フカ、果シテ此勅令ニ對シテ此議
會ガ承諾ヲ與フルト否トニ拘ハラズ、吾々ノ提出シタ法律案ヲ、歡迎デ迎ヘラル、考ヘ
アルカ、本案ノ贊否ニ重大ナル事實及法律上ノ關係ヲ有シマスカラ、此間ヲ發シマス

(政府委員仲小路廉君登壇)

○政府委員(仲小路廉君) 唯今ノ花井君ノ御問ニ答ヘマス、第一ノ御尋ハ唯今繼

續シテ居ル事件ガ何件デ、處分濟ガ何件デアアルカ(花井卓藏君「處分ヲ與ヘザルモノガ
幾ラ」ト呼フ)處分ニ至ラザルモノガ總計二十九人アリマス、ソレカラ裁判ノ確定シタ數ガ
三十三人、ソレカラ不起訴及豫審免訴ガ三十八人デアリマス、ソレカラ第二ノ點デアリ
マスガ、是迄發布シテ居ラヌモノ、刑期ヨリモ、此度ノ方ガ刑期ガ非常ニ多クナリ居ル
ガ、ソレハドウ云フ必要カラ斯ウ刑罰ヲ重クスルニ至ッタカト云フ質問デアラウト考ヘマス
ガ、元來此朝鮮ナリ若クハ滿洲地方ニ於テ行ハレマス銀行ノ一覽拂證券デアルトカ、又
ハ軍用切符ニ關係スルモノデアルトカ、其他白銅貨、是等ノ種類ニ關スル犯罪ハ、數年
來餘程澤山ニ及ビマシタ譯デアリマス、現ニ其遺リ方モ餘程大キナ仕掛ヲ以テヤッテ居
リマス譯デアリマス、之ニ就キマシテ僅ニ重禁錮一年、若クハ罰金二百圓ノ刑罰デアハ、ト
テモ取締ガ付キマセヌ、寧ロ犯罪ニ依ッテ得マシタル利益ガ、刑ヨリモ餘程多イコトニ
ナリマスル結果、關西地方ニハ是等ノ犯罪ガ續出致シマシタ、殊ニ昨年時局以來ハ、
朝鮮ノ混亂ニ乘ジマシタ、多數ノ犯罪者ヲ作ルコトニナリマシタ、トモ今日マデ行ハレ
居リマスル此法律ニ依リマシタ、制裁ヲ加ヘマスコトハ、出來マセヌ次第デアリマス、故
ニ刑ハ成ベク之ヲ重ク致シマシタ、サウシテ此等ノ弊害ヲ杜絶スル途ヲ講ジマスルコトハ、
肝要デアラウト存ジマシタ譯デアリマス、尙此勅令ヲ發布致シマスルニ就キマシタ、緊急
デアッタト云フ理由ハ、是モ唯今申シマスル通ニ、丁度時局ノ關係ト同時ニ、朝鮮ニハ少
ナカラ又關係ヲ有チマシタ、多數内地人モ參ルヤウナ次第デアリマス、其混亂ノ際ニ
處シテ、澤山此偽造貨幣ヲ使用致シマス譯、尙御承知デモゴザイマス、昨年此時局
ニ伴ヒマシタ、軍用手形ノ發布ガアリマシタ、所ガ此軍用手形ニ就キマシタハ、法律上何
等ノ制裁モナイ次第デアリマス、此際朝鮮ニ對シマシタ帝國ノ信用ヲ保持、尙軍用手
形ニ付イテ、相當ノ取締ヲ致シマスル上ニ就キマシタハ、ドウシテモ相當ノ制裁ヲ付スル
法律ヲ發布ヲ、必要ト致シマシタ、此等ノ理由ニ依リマシタ、次ノ議會ノ開期ヲ待ツ暇
ガゴザイマセヌカッタハ、憲法第八條ニ據ッテ、緊急勅令ヲ發布サレタ次第デアリマス、
第三ニ就キマシタハ、是ハ政府ヨリ答辯ヲ致スベキ事柄デナイト存ジマス、兩點デケ御答
致シマス

○花井卓藏君(三百七番) 二十九人ト云フノハ、事件ニスルト何件ニナルノデス、人
間ノ數ヲ問ウタノデハナイ、二十九人デ一件デアッタラバ、僅ニ處分未了ノモノハ一件
ニ止マルコトニナラウト思ヒマス、件數ハ果シテ一件デアッタト云フコトヲ御尋スルノデス、
幾件アルカト云フコトヲ御尋スルノデス

(花井卓藏君「是モ唯今申シマスル通ニ、丁度時局ノ關係ト同時ニ、朝鮮ニハ少

ナカラ又關係ヲ有チマシタ、多數内地人モ參ルヤウナ次第デアリマス、其混亂ノ際ニ

處シテ、澤山此偽造貨幣ヲ使用致シマス譯、尙御承知デモゴザイマス、昨年此時局

ニ伴ヒマシタ、軍用手形ノ發布ガアリマシタ、所ガ此軍用手形ニ就キマシタハ、法律上何

等ノ制裁モナイ次第デアリマス、此際朝鮮ニ對シマシタ帝國ノ信用ヲ保持、尙軍用手

形ニ付イテ、相當ノ取締ヲ致シマスル上ニ就キマシタハ、ドウシテモ相當ノ制裁ヲ付スル

法律ヲ發布ヲ、必要ト致シマシタ、此等ノ理由ニ依リマシタ、次ノ議會ノ開期ヲ待ツ暇

ガゴザイマセヌカッタハ、憲法第八條ニ據ッテ、緊急勅令ヲ發布サレタ次第デアリマス、

第三ニ就キマシタハ、是ハ政府ヨリ答辯ヲ致スベキ事柄デナイト存ジマス、兩點デケ御答

致シマス

○花井卓藏君(三百七番) 二十九人ト云フノハ、事件ニスルト何件ニナルノデス、人

間ノ數ヲ問ウタノデハナイ、二十九人デ一件デアッタラバ、僅ニ處分未了ノモノハ一件

ニ止マルコトニナラウト思ヒマス、件數ハ果シテ一件デアッタト云フコトヲ御尋スルノデス、
幾件アルカト云フコトヲ御尋スルノデス

○政府委員(仲小路廉君) 件數ニ致シマシテ二十三件ニナリマス

○花井卓藏君(二百七番) 尙質問ガアリマス、外國貨幣ニ關スル勅令ノ沿革ハ、三ツニ分レテ居ルノデゴザイマシテ、第一ニ出マシタノガ、明治三十五年ノ勅令第二百五十六號、是ハ緊急勅令デハナイ、ソレカラ第二ニ出マシタノガ、明治三十六年ノ勅令第七十三號、是モ緊急勅令デハナイ、ソレカラ明治三十七年ニ至リマシテ、勅令ノ第七十七號、則チ憲法第八條ノ規定ノ下ニ、非常命令ガ出タノデアル、是ニ於テ私ハ疑フノデアル、大ニ疑フノデアル、憲法第八條ノ適用ト云フモノハ、幾百件幾千件ノ中ニ於テ、僅カニ二件カニ限リナリ性質ノモノデアル、帝國議會ノ有スル立法權ヲ殺シ、縮メ、奪フ、一體變例デアルカラ、時局ノためニ止ムヲ得ズ、之ヲ出シタト云フモノハ、格別デア

ルガ、明治三十五年ニ於テモ、三十六年ニ於テモ、亦三十七年ニ於テモ、立法ノ活動ノ下ニ出タベキ法律ト云フモノヲ、勅令ヲ常ニ制定スルト云フ事柄ニ相成ルノハ、如何デゴザイマセウ、全體此帝國議會ガ開會中デアデ、已ヨリ得ヌカラ此立法ノ變例ヲ取ルト云フノガ、八條ノ規定デアアル、三十五年ニモ議會ハ開ケ、三十六年ニモ議會ハ開ケ、三十七年ニモ議會ハ開ケ、議會ガ開ケレテ居ル、常ニ議會ノ開會ノ時ニ於テノミ、此勅令ヲ出スト云フ事柄ハ、議會ノ公ナル議論ヲ避ケルトシカニハ見エナイノデアル、ソレデゴザイマスカラシテ、事ノ鄭重ヲ保ツガ上ニ、本案ニ對シテ贊否ヲ決定スル上ニ必要ナルガためニマス、政府ニ向テ吾々ノ提出シタルトコロノ法律案ヲ歡迎シ迎ヘルカ、否ヤト云フコトヲ問フ

ノハ、當然ノ話、之ヲ答ヘヌトナラバ答ヘヌデモ宜シウゴザイマスガ、御答ニナツテ當然ノ話、立法協賛ノ上ニ於テ、和衷協同ノ實ヲ舉ゲルト云フコトハ、當然ノ話デアアル、德義ノ上ニ於テモ、法律ノ上ニ於テモ、問ガタ以上ハ答ヘルハ差支ナイ話、飽マデモ立法權ヲ縮メテ、軍國ノ議會デ法律マデモ軍國デクニシテドウモ通過ノ出來ヌヤウナモノハ、皆勅令デ出シテ其理由ヲ開ケバ時局ナリ軍國ナリト云フノデ避ケヤウトスルノ趣意デナイ以上ハ、此答辯ノ出來ヌ理由ハナイト思フ、左様ナ不親切ナ答ナラバ、ソレデモ宜シウゴザイマスケ

レドモ、政府委員ノ答フベキ分界ハ、何ヤト云フコトハ、憲法ノ條章ノ上ニモ、議院法ノ條章ノ上ニモ規程ハナイ、法律ハ答辯——協賛上必要ナモノハ、何デモ答辯スベキ義務ガアルノデアル、尙御答ニナラヌト云ヘバ、格別ノ事デアアルケレドモ、何デモナイ話デハナイカ、從來ノ先例デハ斯ノ如キ問ニハ、政府ガ答ヘタコトハ類々トシテアルノデアル

○森田卓爾君(二百四十一番) 私ハ御答ノ前ニヤハリ質問ガアリマス、宜シウゴザイマス

○花井卓藏君(二百七番) 唯今ノ質問ニ對シテ、答辯ガ出來ナイナラ出來ナイ、シナイナラシナイト云フコトデモ、明ニ致シテ置キタイノデゴザイマスカラ——質問ヲ致シタ以上ハ、御答ニナツテ差支ナイト思フ

○議長(松田正久君) 芳川内務大臣

○内務大臣(子爵芳川顯正君登壇)

○花井君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、政府委員ヨリ唯今答辯セシメマシタガ、是ハ斯ウ云フ意味デアリマス、成程諸君ノ御提出ニ相成ツテ居リマスガ、マデ此案頭ヘ上デ此處ノ議論ニハナラヌノデアル、イツレ項ヲ逐ウテ其餘ニナリマシタ、其時分ニ於テハ、政府ハ同意スルハセヌト云フコトハ、御答ヲスル次第デアリマス、マデ其問題ノ到來セザル前ニ當ツテ、答辯スルコトガ出來ヌト云ウタ意味ニ過ギヌ譯デアリマスカラ、左様御承知ヲ請ヒマス

○花井卓藏君(二百七番) 此案ノ贊否ニ必要ガアリマス

○森田卓爾君(二百四十一番) 質問ヲ御許シニナリマス

○花井卓藏君(二百七番) 反對ノ通告ガシテアリマス

○議長(松田正久君) 森田君ニ質問ヲ許シマシタ

○森田卓爾君(二百四十一番) 質問ヲ致シマス、ソレデハ政府委員ト云ハズ、芳川君ガ御出ニナリマシタカラ、國務大臣ニツ——此帝國議會ニ掛ケズシテ緊急ナル場合トシテ、憲法ノ某條ニ據ツテ勅令ヲ發シタ、此勅令ヲ發シタト云フコトハ、是ハ政府ニ於テモ憲法デドウ云フ場合ニ法律ニ代ルベキ勅令ヲ發スルト云フコトハ、疾ニ御存ジノ答デア

ル、御存ジノ通ニ、是ハ帝國議會ヲ開ケ暇ガナクシテ、天災若クハ事變ノ如キ所謂非常、非常ノ場合ニ於テ已ニナツテ變則ヲ用井ルト云フコトニナラヌデ居ルノデゴザイマス、今此勅令ヲ發セラレ理由ヲチヨット承リマスル、海外ニ於テ偽造者ガ澤山出來ル、日本ノ法律デハ、ソレヲ今迄ノ現行刑法デハ罰セラレナイ、ソレデ困タカラシテ勅令ヲ發シタ、斯

ウ云フ事柄ハ是カラ先ニモ始終アリマス、博奕ガ流行スレバ直ニ博奕ヲ禁遏スル法律ニ代ル勅令ヲ拵ヘナケレバナラス、或ハ選舉法違反者ガ澤山出來ルト、直グ緊急勅令ヲ拵ヘル、斯ウ云フ話——是カラガ質問、斯ウ云フ風ニ國家ニ或刑罰ヲ以テ取締ラナケレバナラヌ事柄ガ出來ル時ニハ、何時デモノ位ノ程度ナルニモ拘ハラズ、苟モ刑罰ヲ以テ取締ル必要ノ事情ガ起ツタ度ニ、此憲法ノ所謂法律ニ代ルベキ勅令ヲ發スルモノト憲法ヲ御解釋ニナラヌデアルカ、又此非常命令ト云フモノハ、ドウ云フ風ナ程度ノ輕微ナ事柄ガ起ツタ時ニハ、決シテ罰スベキモノデハナイ、第一ニ非常ト云フコトノ條件ト、帝國議會ガ其時ニ開ケレテ居ナイト云フ、二ツノ條件、此非常ト云フコトハ、所謂文字ノ示ス如ク、非常ノ程度ニ上ツタトコロノ國家ノ治安、若クハ安寧ヲ保持スルコトノ出來ナイ程ノ事柄デナケレバ、此勅令ト云フモノヲ發スベキモノデナイト云フ解釋ヲ、御採リニナラヌデアルカ、此位ノ輕微ナ事柄ガ起ツタ時ニハ、イツモ法律ニ代ルベキ勅令ヲ發スルト云フ、憲法ヲ御解釋ニナラヌデ居ルカ、是ガ第一、ソレカラ第二ニ御尋ヲ致シタイト云フコトハ、假

私ノ解釋ヲシテ正當ナリトスレバ、斯ウ云フ輕微ノ場合ハ、實ハ緊急勅令ヲ發スベキモノデハナイ、サウ致シマスル、政府ハ此外國ニ於テ紙幣ヲ偽造シタト云フモノガ數人出タ、數十人出タ位ノコトヲ以テ、憲法ノ所謂非常命令ト云フ、此帝國議會ヲ開ケ違ガナイ、若クハ開ケナイ時ニ非常命令ヲ發スル程度ニ上ツテ居ル害アリト御認めニナツタカドウカ、御認めニナツタナラバ、後トテ議論ヲ生ズルコトニナリマスカラ、此二ツヲ御尋致シマス

(内務大臣子爵芳川顯正君登壇)

○内務大臣(子爵芳川顯正君) 森田君ニ御答ヲ致シマス、此後トデモ憲法八條ニ據ルモノハ、如何ナル輕微ナモノデモ、議會ガ開ケザル時ニ於テ發生シタナラバ、之ヲ出スカト云フ御尋デアアルヤウデアリマスガ、此モノハ緊急不緊急ノ時ノ狀勢ニ因リ、見ヤウニ因ルノデアリマス、無論議會ノ開會ヲ待ツ連ガアレバ、何ヲ苦シデ此非常命令ヲ出ス手段ヲ致シマセウ、政府ニ於テ此命令ヲ出スコトニ致シマシタノハ、帝國議會ノ開會ヲ待ツコトガ出來ナイ程ニ緊急ナリト、其事件ヲ認メタノデアリマス、次ノ議會ガ待タルモノヲモ、尙議會ガ彼此ヒ云フデアラウト云フヤウナコトヲ意ニ構ヘテ、緊急勅令ヲ發シタト云フ次第デハ、決シテナイノデアリマス、又今後トデモ、此場合ナイト云フコトハ、決シテ保證ハ出來ヌデアリマス、其發生シタル事件ニシテ、極メテ重大ト思ヒ、又次ノ議會ノ開會ヲ待ツコトガ出來ナイト認メタ曉ニハ、或ハ同一ノ手段ニ出デナイト云フ保證ハ、出來ナイノデアリマス、今日マデ發シマシタノハ、總テ緊急ニシテ避ケベカラズ、次ノ議會ヲ待ツコトガ出來ナイ程ノモノデアルト云フコトヲ認メテ、勅令ヲ發シタニ相違ハナイノデアリマス、御答ヲ致シマス

○守屋此助君(二百九十二番) 私ハ此贊否ヲ決スルニ付イテ、大ニ問ウテ置カケレバナラヌコトガアルノハ、花井君ガ問ハレタ事柄ノ一部分ニモ跨ツテ居リマスガ、詰リ今日ノ議事日程ノ第十九ニ外國ニ於テ流通スル貨幣、紙幣、銀行券、證券偽造變造ニ關スル法律案ト云フモノガアルノデアル、是ハ、政府ハ贊成スルカ、セヌカト云フコトノ問ニ對シテ、政府委員ノ仲小路君ハ、答辯ノ限リニアラズト、斯様ナ御答デアアル、是ハ政府ノ、私ハ德義上、政治家ノ德義トシテ、甚ダ不穩當ノ答辯デアルト思フテ居ツタ一人デアダガ尙

重テ問フト云フ、大臣ハ其日程ノ處デナケレバ、答フルコトガ出來ナイト云フ積デ答ヘタル、其積デ答ヘタルト云フ事柄ヲ、政府ノ内輪トシテ大臣ガ配下ノ役人ヲ辯護スルト云フ仕方ニ於テ、私ハ巧妙ナ大臣デアルト思フ、併シ國務大臣ハ唯己レノ局長ノ面目ヲ保ツダケガ、大臣ノ職責デハナイノデアル、國家ノ國務ヲ料理スル上ニ於テハ、芳川大臣ハ自カラ別ノ御論ガアラウト思フ、左様ナ不親切ノ事柄ヲ云ウテ、三百代言の(笑聲起ル)之ヲ切抜ケルト云フ事柄ハ、吾ガ云ヘバ、必ヤ大臣始メ諸君ガ法律家ナルガ慈シサニ、アレハ三百口調ヲ用井ルト、斯様ニ云ハル、デアラウガ長老ナル芳川大臣モ其事ニ就イテ少シ御若イ舉動ヲ御執リニナツテモ宜イ、ソコデ私ハ最後ニ斯ウ問ヘバドウ御答ヘニナルカト云フコトヲ問フデアル、今日ノ議事日程十九ハコロト離レマス、コロト離レテ、マダ議案ニ觸レヌカラ之ヲ問フト云フガ如キ野暮ナコトハ問ハヌガ、併シ斯ウ云フコトヲ問ハヌ、アノ外國ニ於テ流通スルトコロノ貨幣、紙幣、銀行證券ト云フガ如キモノヲ偽造シタノヲ、重罪ノ刑ニ處スルト云フガ如キ、重大ナル國民ノ自由ヲ奪ヒ、名譽ヲ奪フコトヲ極メモノヲバ、勅令デスル事柄ヲ政府ハ望ンデ居ルカ、ソレバ法律デスルコトノ順道ヲ採ルベキガ、政治家ノ德義デアル、順道ヲ履ムベキガ國民ノ權利ヲ尊重スル立憲國ノ大臣ノ舉動トシテハ、ソチヲ方ヲ採ルノ順道デアルト思フデ居ルデアルカ、ソコデモ、問ヒマセウ決シテ私ハ議事日程ニ未ダ上ラザル第十九コトヲ問ヒマセウ、問ヒマセウガ、斯様ノ事實ハ、德義トシテ立憲國ノ大臣ノ德義トシテ一局長先生ニハ問ハヌ、大臣ノ德義トシテ、ドウカ御答アラント私ハ望ム、唯ハヤミニ言葉ヲ生シテ、御互ニ赤誠ヲ披イテ、眞心デ事ヲ議シ、殊ニ此重罪ノ刑ニ當ルガ如キ重大事柄ヲ、國民ノ權利トシテ重大ノ事柄デアルガ、殊ニ帝國議會ノ議事權ノ上ニ、最も重大ノ問題デアルカラ、ソレ故ニドウカ、言葉ヲ芳川大臣ハ、俗ニ謂フ三百代言のニキカナイデ、十分立憲國ノ大臣ノ德義ト云フコトヲ願ミラレテ、議事日程ノ十九ヲ願ミズニ、御答アラント望ミマス

(内務大臣子爵芳川顯正君登壇)

○内務大臣(子爵芳川顯正君) 大層守屋君ニ若返デ御褒メニ與ツタ、老耄爲スナキノ身ト思ウデ居ル、大層若イ御褒メニ與ツタハ有リ難イ、又守屋君ノ云ハル、ガ如ク、私ハ法律ニ甚ダ迂イ、法律家ナリト云ハヌノミナラズ、二百の議論モ出來ナイト思ウテ居ル、ソレ故ニ辯ヲ弄シテ局長ヲ辯護スルトカ、或ハ困難ヲ道レトカ云フコトハ致サヌ積デアリマス、ソレハ御了解ヲ願ヒタイ、ソレカラ御尋ハモウ一ツ御確メ申シテ置キタイハ、重罪ニ人ヲ刑セシナラヌ程ノ重イコトヲ、法律デスベキモノデアルカ、勅令ヲ以テ之ヲ規定シテ甘シテ居ルノカ、ドチラカ、之ヲ德義ニ考ヘテ答ヘロ、斯ウ云フ御話デアッタ考ヘマシタガ、サウデゴザイマス

○守屋此助君(百九十二番) 左様デゴザイマス

○内務大臣(子爵芳川顯正君) 無論此斯ル重大ナ事ヲ議スルニハ、帝國議會アデ協賛ヲ責メサレノデアリマス、無論此帝國議會ヘ法律案トシテ提出シテ、諸君ノ協賛ヲ求メルノハ、是ハ至當ナコト、私モ思フノデアリマスガ、唯事緊急ニシテ帝國議會ノ開會ヲ待ツ違ノ事トシテハ、憲法ハ明カニ緊急勅令ヲ發スルコトヲ規定シテアルノデアリマス、斯ル緊急ノ場合ニ於テハ、此緊急勅令ヲ發シテ、斯ノ如キコトヲ規定シ得ルモノト考ヘテ居リマス、無論事緊急ナラズシテ、帝國議會ノ開會ヲ待ツ場合ガアリマスレバ、無論帝國議會ヘ持テ來テ、諸君ノ協賛ヲ經ルノデアリマス、唯緊急ニシテ此開會ヲ待ツコトガ出來ルト、出來ザルトノ問題ニ依テ、別レノデアリマス、サウ御承知ヲ願ヒタイ

○大岡育造君(百六十四番) 動議ガアリマス、本件ハ之ニ相同ジキコロノ法律案

ガ、花井君カラモ出テ居レバ、元田君鳩山君カラモ提出ニナツテ居リマス、此新ニ提出セラレタルコロノ法律案ガ、委員ニ付託セラレテ議了セラレルマデ、此案ノ議事ヲ延期シタイト云フ動議デアリマス

(賛成ト呼ブモノアリ)

○議長(松田正久君) 今大岡君ヨリ、本案ノ議事延期ノ動議ガ出テ居リマスガ、其動議ニ付イテ御異議ガアルヤ否ヤヲ問ヒマス

(異議ナシト呼ブモノアリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、本案ノ議事ヲ延期スルコトニ決定致シマス、次ハ第十八明治三十七年勅令第二百二十五號ヲ議事ニ付シマス、委員長ヨリ報告ガアリマス——石田貫之助君——委員長ハ閣席デアリマスガ、安藤新太郎君

第十八 明治三十七年勅令第二百二十五號承諾 (委員長報告)

○恆松隆慶君(百五十九番) 委員長モ理事モ閣席ナラバ、委員ノ報告ナシニシテ、前ノ案ト同様デゴザイマスカラ、是モ法律案ガ出テ居リマスカラ、延期ニナラント望ミマス

○花井卓藏君(三百七番) 私ハ先例ハ能ク存ジマセヌガ、委員長モ理事モ出席シテ居ラナイ所ガ、此案ハ前ノ案ト違ヒマシテ、委員會ニ於テハ進歩黨ノ諸君モ、政友會ノ諸君モ、自由黨ノ諸君モ、無所屬、甲辰俱樂部ノ諸君モ、滿場一致デ承諾ヲ與フベカラズト決定シタ案デアルノデアリマスカラ、前ト同ジヤウナ理窟ニハ往クマイト思ヒマス、此處デ報告スレバ、議院ニ容レラレル問題ト思ヒマスカラ、委員中ヨリ報告スル先例ガアルナラバ、致シタイト思ヒマス——アルト思ヒマス

(延期々々ト呼ブ者アリ)

○議長(松田正久君) 延期ノ動議ガ出テ居リマスカラ、報告ヲ延期スルヤ否ヤノ決ヲ採リマス、本案ノ議案ヲ延期スルノ動議ニ賛成ノ諸君ハ、起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○議長(松田正久君) 多數デアリマスカラ、本案ハ延期致シマス、議事日程第十九外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造ニ關スル法律案、第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略致シマス——花井卓藏君

第十九 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造ニ關スル法律案 第一讀會

變造ニ關スル法律案(花井卓藏君提出)

第一條 外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造ニ關スル法律案

證券ヲ偽造シ又ハ變造シテ行使シタル者ハ輕懲役ニ處ス

金銀貨以外ノ硬貨ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 偽造又ハ變造ニ係ル前條ニ記載シタル物ヲ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ行使セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

收得シタル後其ノ偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ行使シ若ハ行使セシムル

ノ目的ヲ以テ授付シタル者ハ其ノ價格ニ倍ノ罰金ニ處ス但シ二圓以下ニ降スコトヲ得ス

第四條 第一條ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ、授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條 前數條ニ規定シタル輕罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第六條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第七條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未タ行使セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ刑ヲ全免ス

第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ確定裁判ヲ經タル者ト雖更ニ之ヲ處罰スルコトヲ妨ケス但シ犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第九條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

(花井卓藏君登壇)

○花井卓藏君(二百七番) 諸君、此問題ハ先刻來問題ニナリテ居リマシタ、勅令第七十七號ニ關聯セシトコロノ案アリマス、私ノ希望ト致シマシタハ、勅令第七十七號ノ案ヲ議ニ付セラレテ、而シテ之ニ承諾ヲ與フベキカ否ヤト云フコトヲ、憲法ノ條規ヨリ、當院ノ有セシ歴史ノ上ヨリ、先例ノ上ヨリ、論究致シマシタ、然ル後ニ本案ニ移ルト云フコトハ、極メテ適當ノ途アラウト信ジテ居ルノデゴザイマス、併ナガラ既ニ延期ニナリマシタル以上ハ、已ムヲ得マセヌカラシテ、大體此問題ノミニ對シテ、簡單ニ提出ノ理由ヲ述ベテ置カウト思フノデアリマス、第一ノ理由ハ、憲法ノ要求ト致シマシタモ、非常立法立法權ノ變例ト云フモノヲ政府ニ許ス趣旨デハナイ、又議會ノ面目ト致シマシタ、斯ル變例ヲ採リタクナイ、是ガ一ツノ希望デアリマス、又憲法ノ條規ノ上カラ見マシタモ、緊急已ムヲ得ザル場合ニ於テ、非常命令ヲ發スルコト云フコトハ、無論是認セラレテハ居リマスケレドモ、併ナガラ憲法ツレ自身ガ彼ガ如キ事ノ屢起ルト云フコトハ、決シテ望ンデ居ナイノデアアル、ツレ故ニ其當時ノ狀態ニ顧ミテ、眞ニ彼ガ如キ發令ノ必要アルヤ否ヤト云フコトヲ、議會ニ問ウテ、議會ニ向テ、責任解除ヲ求メルト云フ趣意ニ於テ、憲法八條ハ次ノ項ヲ設ケテ居ルノデゴザイマス、議院ニ於テ若シ承諾ヲ與ヘナカッタ折ニハ、效力ハナイゾヨ、斯ノ如キ規定ヲ致シマシタ所以ハ、要スルニ議院ノ抗議ヲ避クベキ方法ニ、緊急勅令ノ濫發ヲ止ムコトガアツテハ、議會ノ有スル立法權ト云フモノハ、全ク空文ニナルノデアアル、議院ハ形式ニ了ルノデアルト云フコトヨリ致シマシタ、事情審查ヲ議院ニ求ムルモノ、一ノ規定ガ存在致シテ居ルノデゴザイマス、ツレ故ニ私ノ見ルトコロニ依レバ、事情審查シテ發布スベキ必要ガアルト認メテモ、當時發布シタマケノ責任ヲ解除スレバ足

ルベキ次第デゴザイマスカラシテ、一時限リニ效力ヲ消滅セシメテ、サウシテ開カレテ居ル議會ヘ、立派ナル法律ヲ出サシムル、若クハ出スト云フ事柄ガ、憲法八條ノ正經アラウト、私ハ確信ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、然ルニ今政府者ノ爲ストコロヲ見ルト云フト、責任ノ解除ヲ求メルト云フニハアラズシテ、此勅令自身ヲ法律トシテ、若クハ法律ニ代ルベキモノト致シテ、未來永劫ニ存在セシメテ、議院ノ有スルコロノ立法協贊權ノ除外例ノ端緒ヲ一ツ作リタイ、若クハ又吾々ノ作リタルコロノ緊急勅令ハ、一字一句ノ瑣瑣ハナイカラシテ、アレ等ニ向テハ、修正ノ餘地ヲモ與ヘナイデアルト云フコトノ端緒ヲ開ク、是ハ動機ニナルノデゴザイマス、當院ノ先例ヲ讀ンデ見マシタモ、勅令ニ對シテハ、一字一句ノ修正ヲモナスコトガ、出來ナイト云フコトノ先例モゴザイマス、又憲法ノ上ニ於テ、當然ノ話デアアル、吾々ハ此法律ニ對シテ、加除修正ノ權能ヲ有シテ居リナガラ、此緊急勅令ニ對シテハ、加除修正ノ權能ガモ奪ハル、ト云フ、本案ノ如キ勅令ヲ迎ヘルト云フ事柄ハ、容易ナラヌ話アラウト思フノデゴザイマス、併ナガラ斯ノ如キ事實ト云フモノガ、和衷協同ノ上ニ於テハ、心配ハナイト云フ論ガアルカモ知レマセヌガ、議院ノ歴史、議院ノ先例ト云フモノヲ開クニ當テ、效力ヲ有スルモノデゴザイマスカラシテ、一旦開ケタル惡例ト云フモノハ、容易ニ後ニ於キマシテ打崩スコトハ出來マイト思フノデゴザイマス、殊ニ軍國ニ關係ノナイ單純ナル立法問題デアアルノデゴザイマスカラシテ、法律ノ正經ニ依ルベキ彼ガ如キ案ハ、法律ノ正經ニ依テ立案シタルモノヲ以テ、審議表決ヲスルト云フコトヲ、何處マデモ私ハ維持シテ置キタイト云フ考ヲ有テ居リマス、現ニ當院ニ於テ明治三十三年二月ノ議會ニ於テモ、是ト同様ナル案ガ出タノデアリマス、即チ明治三十一年勅令第三百七十七號府縣會議員ノ選舉罰則ニ關スル事案ニ對シマシタ、議會ハ殆ド滿場一致ヲ以テ、私共ノ議論ト同様ナル趣意ニ於テ、御迎ヘ下サレマシタ、事後承諾ヲ與ヘスト云フ御決定ニ相成ツテ居ル次第デゴザイマス、本日ノ議事ハ無論延期ニナリマシタガ、來ルベキ次ノ會日ニ於キマシタハ、無論承諾ヲ與ヘナイト云フコトニナルコト、信ジテ居リマスガ、承諾ヲ與ヘナイ曉ニハ、ドウスルカ、此場合ニ於キマシタハ、吾々ノ權能トシテ、吾々ハ斯ノ如キ案ト云フモノヲ出シテ御覽ニ入ル、ト云フ事柄ガ出來ルノデアアル、是ニ依テ政府ハ力ノ強イ法律ニ依テ、取締リヲシタラ宜カラウト云フコトヲ以テ往テ、徒ラニ論ズルバカリデナク、此通デアルト、自分ノ方デ臆立ラシテ之ヲ示ス必要ガナイデハナイカト云フ事柄ハ、言ヒ得ラルベキ事ト思フノデゴザイマス、要スルニ憲法ノ上ノ立法ノ權利ヲ縮メナイヤウニ、而シテ緊急勅令ヲ濫發セシメナイヤウニ、而シテ本院ノ麗ハシキ先例ヲ存シタイタメニ、而シテ我等ハ發言スルバカリデナク、斯ノ如キ案ヲ出シテ置クト云フノデアアルト云フ事柄ヲ示シテ、私ハ提案ヲ致スコロノ第一ノ理由ヲ作ツタ次第ナノデゴザイマス、ソレカラ第二ニ申上テ置キタイ事柄ハ、勿論此緊急勅令ト雖モ、全編ヲ通覽シテ、善盡シ美盡シ一點ノ瑕瑾モナイト云フ場合ニハ、暫ク忍ビテ之ニ承諾ヲ與ヘルト云フコトモ、差支デゴザイマス、併ナガラ此條項ノ上ニ於テ、現ニ法律トシテハ關ケベカラザル法律管轄ノ區域ト云フヤウナモノ、規定ト云フモノガ、存立致シテ居ナイトカ、或ハ又沒收ナル一ツノ刑罰ニ關スル——沒收ト云フハ、語弊ガゴザイマスガ、官沒ト云フ一ノ規定ヲ設ケテ置キナガラ、如何ニシテ官沒スルヤト云フ規定ト云フモノヲ全然設ケズシテ、省令ニモ依ラズ、附則ノ上ニモ書カズシテ、其儘官沒ト云フ刑罰ヲ實行スルト云フコトハ、出來ナイ筈デアアルニ、彼ガ如キモノヲ關如致シテ居ルトカ、其他從前ノ——明治三十八年ノ百七十七號ハ前ノ項デゴザイマシタガ、其前ニ出マシタトコロノ勅令ニナイトコロノ刑罰ノ權衡ト云フモノガ、甚ダ得テナイカラシテ、重キニ失セズ、輕キニ失セズ、新舊過渡ノ時代ニ於テハ、法律的ノ刑ノ權衡ト云フモノガ、互ニ調和ノ出來ルヤウニ、互ニ折衷ヲシナケ

レハナラヌトコロノ、其事柄ノ調和ト云フモノガ出來テ居ラヌ、數ヘ來レバ、文字ニ致シマシタナラバ、幾十幾百ノ點點ノアル勅令デゴザイマスカラシテ、之ヲ九吞ミニセヨト云ハレタトコロデ、ナカク消化ハ出來ナイノデアル、現ニ此點ニ關シテハ尊敬スベキトコロノ鳩山君ノ手ニ依テ、若クハ元田君ノ手ニ依テ、立派ナル案ガ出來テ居リマシテ、此緊急勅令ニ同情ヲ表セラレタル所以ガ、證明サレテ居ル、ソレデゴザイマスカラシテ、此案ト云フモノヲ、先ガ提出致シマシタル第二ノ理由ト致シマシテ、勅令自體ヲ九吞ミニハ出來ヌモノデアル、修正ノ餘地ノアル勅令デアル併ナガラ勅令トシテハ修正ガ出來ナイカラ、法律ニ譲リ、諸君ノ審議ヲモ請ヒ、諸君ノ教ヲモ請ヒ、又一旦決シタル後ニ於テハ、次ノ議會ニ於テ諸君ガ取捨更正ガ出來ル餘地ヲ作ルタメニ、此法律ヲ出シテ置ク必要ガアルト云フノガ、第二ノ理由ニナルデゴザイマス、一體精シク論ジテ見タイと思フデゴザイマスガ、ソレハ此緊急勅令ニ事後承諾ヲ與ヘナイト云フ事柄ニ付イテ、盛ニ私ハ論ジテ見タイと思ヒマシタガ、本案ニ關シマシテハ、適切ニ其議論ヲ此處デ以テ致シマスル程ノ必要ハゴザイマセヌ、要スルニ第一ノ理由ニ於テ述ベタル如ク、第二ニ於テモ申述ベタル如ク、法律ハ今尙必要デアル、而シテ之ヲ勅令ニ讓ラズシテ、法律ニ依ルト云フコトハ、憲法上ノ定則デアル、人ノ身體自由名譽ヲ拘束スルコト云フ制裁ト云フモノハ、帝國憲法第二十三條カニ規定セラル、ガ如ク、無論法律ニ依ラナクレバナラヌモノデアルカラシテ、此案ヲ提出シタト云フ事柄ニ歸著ヲ致シマス、尙精シク説明ハ委員會ニ於キマシテモ致サウト存ジマスガ、諸君ニシテ御疑ヒノ點ガゴザイマセバ、十分ニ質問ニ答ヘル積デゴザイマス、又其材料モ有シテ居ルデゴザイマス

○恆松隆慶君(百五十九番) 本案ハ、九名ノ委員ヲ議長指名ニナランコトヲ希望致シマス

(贊成キヤト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 恆松君ヨリ、本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フ勅令ガ出マシタガ、御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ恆松君勸議ノ如ク決定致シテ、委員ニ付託スルコトニ決シマス、議事日程ノ第二十俘虜刑罰法案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省キマス

第二十 俘虜刑罰法案(花井卓藏君外四名提出)

第一讀會

俘虜刑罰法案

俘虜刑罰法案

第一條 俘虜監督者監視者又ハ護送者ニ對シ反抗若ハ暴行ノ所爲アル者ハ重禁獄ニ處シ其ノ情重キ者ハ死刑ニ處ス

第二條 俘虜共謀シテ多衆前條ノ所爲アルトキハ首魁ハ死刑ニ處ス其ノ他ノ者ハ有期流刑ニ處シ其ノ情輕キ者ハ重禁獄ニ處ス

第三條 俘虜逃走ノ所爲アルトキハ六月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第四條 俘虜逃走セサル宣誓ヲ爲シ前項ノ所爲アルトキハ一等又ハ二等ヲ加フ

第五條 俘虜共謀シテ多衆逃走ノ所爲アルトキハ首魁ハ有期流刑ニ處シ其ノ情重キ者ハ死刑ニ處ス其ノ他ノ者ハ重禁獄ニ處シ其ノ情輕キ者ハ六月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第六條 宣誓解放ヲ受ケタル俘虜宣誓ニ背ク者ハ重禁獄ニ處シ其ノ宣誓ニ

背キ抗敵スル者ハ死刑ニ處ス

第六條 第三條、第五條以外ノ宣誓ニ背キ其ノ情重キ者ハ六月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七條 俘虜本法及陸軍刑法、海軍刑法ニ規定シタル以外ノ法令ヲ犯シタルトキハ各法令ニ遵フ但シ一等又ハ二等ヲ加フルコトヲ得

第八條 第一條乃至第六條ノ規定ハ再び俘虜ト爲リタル者ノ前ニ俘虜タリシトキニ犯シタル罪ニ之ヲ適用セス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(花井卓藏君登壇)

○花井卓藏君(二百七番) 此案ハ簡單ニ説明スルト云フ利益ガアルノデアル、即チ前ノ問題ニ關シマシテ述ベタル理由ヲ移シテ、以テ此問題ニ應用ガ出來ルノデアル、唯條文自體ニ付イテ、一ツ申上ケテ置キタイと思ヒマス、第三條ノ「俘虜逃走ノ所爲アルトキハ六月以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス」ト云フノガゴザイマス、是ガ重大ナル問題ニナルノデス、國際法ノ原則トシテハ、俘虜逃走ヲ企テルト云フ事柄ハ、別ニ罪トシテ問フベキモノデナイト、ソレハ各々本國ニ忠誠ナル將校軍人トシテ、早く國ニ歸リテ國ノ名メニ盡シタイト云フ人情ハ、無論アルベキ筈デアルカラ、縱シヤ彼ガ逃走ヲ企テ、モ、之ヲ罪トシテ問フト云フ事柄ハ、甚ダ武士道ヲ輕シタル趣意デアルト云フノデ、國際法ハ之ヲ懲罰規定ニ讓ルト云フヤウナ趣意ニ論ジテ居ルモノガアル、現ニ此勅令ノ上ニ於キマシテモ元田君等ノ提出セラレタ案ニ依テモ、此條文ハ削アル、私ノトハ違フデ居ル、然ルトコロ私ノ解釋スルトコロニ依テ見ルト、懲罰ト申シマシテモ、懲罰ニモ依リケリテ、刑罰以上ノ懲罰ト云フモノヲ是認シタ以上ハ、之ヲ法律ノ上ニ規定シテ、刑トシテ現ニ定メテ置ク方ガ、取締リノ上ニ便利ガ宜カラウト考ヘル、現ニ此「ブラッセル」ノ宣言ノ二十八條デゴザリマシタカ、二十九條デゴザリマシタカ、條文ハ能ク記憶致シマセヌガ、俘虜ガ逃走ヲ企テ、止マレト號令ヲシテモ十分背カナカッタ時ニハ、射殺シテ差支ナイ、射撃ヲシテ差支ナイ、ソレニ依テ遂ニ死ニ至テモ、決シテ差支ナイト云フ事柄ガ、掲ゲラレタル、明治二十三年ノ和蘭ノ海牙ニ於テ開ケタ處ノ、平和會議ノ條約ニ據リマシテモ、第八條ノ一項ニ、俘虜シテ不柔順ナル行動ガアッタ時ニハ、嚴重ナル懲罰ヲ科シテ宜シト云フコトガアル、之ガ説明ト云フモノハ、或ハ獄中ニ幽閉ヲシ、或場合ニ於テハ、之ガ總テノ自由ヲ監禁ヲシテモ差支ナイト云フコトガ書イタル、幽閉ヲシテ懲罰スル場合ニ依テハ、殺戮モ出來ル、併ナガラ、之ハ一種ノ軍事懲罰デアル、此懲罰ハ刑法以上ノ懲罰デアル、然ラバ之ニ對シテ六箇月以上五年以下ノ禁錮ニ處スルト云フ懲罰ヲ設ケテ置イデモ、毫モ國際法ノ典例ニハ背キハセヌト思フ、「ブラッセル」ノ典例ハ、一ノ慣例トシテ重シラレテ居ル、海牙ノ條約モ之ヲ無効トハシナイ、慣例ハ慣例トシテ見テ宜シ、別ニ之ヲ茲ニ書改メテ置カナイカラト云フデ、慣例ヲ廢棄シタ譯デハナイガ、私ハ茲ニ三條ヲ加ヘタ、ソレカラ第七條ノ事ニ付イテ、一言致シテ置キタイ、是モヤハリ元田君ノ案ナドトハ違フデ居ル點ハ、即チ「俘虜本法及陸軍刑法、海軍刑法ニ規定シタル以外ノ法令ヲ犯シタルトキハ各法令ニ遵フ」ト云フデ、是ハ如何ナル場合デアルカト申シマス、俘虜ガ陸軍刑法ノ違反ニモアラズ、海軍刑法ノ違反ニモアラズ、又一般國際法上懲罰ヲ科スベキ犯罪ニモアラズ、單純ナル普通刑法ノ下ニ於テ、犯罪ヲ犯ス事柄ガアル、例ヘバ窃盜犯トカ、毆打ヲスルト云フヤウナ場合ニハ、俘虜ハ如何ニシテ處罰スベキカト云フテ見ルト、其規定ハ陸軍刑法ニモ、海軍刑法ニモ、其他ノ法令ニモ、何等ノ規定ガナイ、併ナガラ俘虜ガ日本ニ來テ居ル

以上ハ、日本ノ法律管轄ニ屬スルカラシテ、普通刑法ニ依ッテ、軍法會議ガ裁判シテラ宜シト云フ論ガ、出ルカ知リマセケレドモ、ソレハ陸軍刑法、海軍刑法ノ外ニ、陸軍治罪法、海軍治罪法ト云フモノヲ御覽ニナレバ、此規定ガナケレバ運用ガ正シク往カヌト云フ事ガ分リマス、殊ニ各國ノ規定ヲ讀シテモ此種ノ規定ヲ設ケテ居ル所モアル、或ハ設ケザリシヲ却テ遺憾トシテ居ル國モアリマスカラ、之モ設ケテ置イタ次第デゴザイマス、其他ノ點ニ關シテハ、大體政府ノ緊急勅令ノ案、竝ニ元田鳩山兩君ノ提出セラレタ案ト、殆ド文字ニ至ルマデ違フトコロハゴザイマセヌ、サウ云フ次第アリマスカラ、殊ニ異ナリタル部分ノミヲ申上ケテ置キマシテ、委員ニ付託セラレマシテ、鄭重ナル審査ヲ遂ゲラレンコトヲ、併セテ要求致シマス

○恆松隆慶君(百五十九番) 本案ハ元田君カラモ出テ居リマスルデ、詰リ九名ノ委員、議長指名ヲ願ヒマス

○議長(松田正久君) 恆松君動議ノ如ク、本案ハ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フコトニ、御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、其如ク決定ヲ致シマス——議事日程第二十一外國ニ於テノ流通スル硬貨紙幣銀行券及帝國官府發行ノ證券偽造變造及模造ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

第二十一 外國ニ於テノ流通スル硬貨紙幣銀行券及帝國官府發行ノ證券偽造變造及模造ニ關スル法律案 第一讀會

外國ニ於テノ流通スル硬貨紙幣銀行券及帝國官府發行ノ證券偽造變造及模造ニ關スル法律案

第一條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ重懲役又ハ輕懲役ニ處ス

第二條 流通セシムルノ目的ヲ以テ外國ニ於テノ流通スル金銀貨、紙幣、銀行券、帝國官府發行ノ證券ヲ偽造シ又ハ變造シタル者ハ輕懲役又ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第三條 情ヲ知テ偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ヲ行使シ若ハ流通セシムルノ目的ヲ以テ授受シタル者ハ輕懲役又ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第四條 第一條ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供シ若ハ供セシムルノ目的ヲ以テ器械若ハ原料ヲ製造シ授受シ若ハ準備シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第五條 販賣スルノ目的ヲ以テ第一條ニ記載シタル物ニ紛ハシキ外觀ヲ有スル物ヲ製造シ又ハ帝國若ハ外國ニ輸入シタル者ハ三年以下ノ重禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

前項ニ記載シタル物ヲ販賣シタル者ハ前項ノ例ニ同シ

第六條 前數條ニ記載シタル輕罪ヲ犯サムトシテ未ダ遂ケサル者ハ未遂犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

第七條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ禁錮ノ刑ニ處スル者ハ六月以上二年以下ノ監視ニ付ス

第八條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シタル者偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物ノ未ダ行使セラレサル前又ハ第五條ニ記載シタル物ノ未ダ授付セラレサル前ニ於テ官ニ自首シタルトキハ主刑ヲ免除スルコトヲ得

第九條 本法ニ規定シタル罪ヲ犯シ外國ニ於テ鑑定判決ヲ經タル者ト雖モ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減免スルコトヲ得

第十條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ハ裁判ニ依リ沒收スル場合ノ外何人ノ所有ヲ問ハス行政ノ處分ヲ以テ之ヲ官沒ス

官沒ニ關スル手續ハ別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 偽造又ハ變造ニ係ル第一條ニ記載シタル物及第五條ニ記載シタル物ニハ明治九年布告第五十七號ヲ準用ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第七十七號ハ之ヲ廢止ス

○元田肇君(百六十三番) 簡單デアリマスカラ、當席ヨリ述ベマスガ、此法律案ヲ提出致シマス趣意ハ、ヤハリ大體ニ於テハ花井君ノ述ベラレタヤウコトデアリマスガ、唯少シ違ヒマス事ハ、花井君ノ意見トシマスルト、緊急勅令ノ事ニ付イテハ、絶對的反對スト云フ事ハ、既ニ極デ居ルヤウデアリマスガ、本員ハ緊急ノ場合ニ方ッテ、政府ガ出シタ法律案ハ、不幸ニシテ議會ノ協賛ヲ經ルコトガ出來ナイカラシテ、勅令トシテ出シタデアルガ、是カラ將來ニ於テハ既ニ議會モ開ケテ居リマスカラ、十分審査ヲシテ、將來ノ法律案ヲ議スルガ宜イコト云フ考ヘデ、提出致シタルデアリマス、併ナガラ緊急勅令ニ付イテハ、自ラ議論ガアリマスカラ、茲ニ申上ケル必要ハアリマセヌガ、免ニ角將來ニ行フコトニ就イテハ、十分ニ我立法議會ノ權能ニ於テ、出來ル限ノ審査ヲ盡シテ法律ヲ拵ヘタガ宜カラウ、又之ガ出來ルニ付イテハ、政府ハ歡シデ迎ヘナケレバナラヌト信ズル、ソレデアリマスルガ、併ナガラ此法文ノ上カラ申シマスルト、花井君ノ出サレテ居ルモノト違ヒマスルケレドモ、一貫シタ案デアリマスルガ故ニ、願クバ花井君ノ案ト同委員ニ付託シテ、互ニ進行スルコトヲ希望致シマス

(贊成々々ト呼フモノアリ)

○議長(松田正久君) 本案提出者ヨリ、前委員ニ付託シタイト云フ請求ガアリマスル、御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ、前委員ニ付託スルコトニ決シマス——議事日程第二十二條 俘虜處罰ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス、朗讀ハ省略シマス

第二十二 俘虜處罰ニ關スル法律案(元田肇君外一名 第一讀會)

第一條 俘虜監督者監視者又ハ護送者ニ對シ反抗若ハ暴行ノ所爲アル者ハ

第二十二 俘虜處罰ニ關スル法律案(元田肇君外一名 第一讀會)

第一條 俘虜監督者監視者又ハ護送者ニ對シ反抗若ハ暴行ノ所爲アル者ハ

第二十二 俘虜處罰ニ關スル法律案(元田肇君外一名 第一讀會)

第一條 俘虜監督者監視者又ハ護送者ニ對シ反抗若ハ暴行ノ所爲アル者ハ

第二十二 俘虜處罰ニ關スル法律案(元田肇君外一名 第一讀會)

重禁獄ニ處シ其ノ情輕キ者ハ六月以上五年以下ノ輕禁獄ニ處ス
第二條 俘虜共謀シテ多衆前條ノ所爲アルトキハ首魁ハ死刑ニ處ス其ノ他
ノ者ハ有期流刑ニ處シ其ノ情輕キ者ハ重禁獄ニ處ス
第三條 俘虜共謀シテ多衆逃走ノ所爲アルトキハ首魁ハ有期流刑ニ處シ其
ノ情重キ者ハ死刑ニ處ス其ノ他ノ者ハ重禁獄ニ處シ其ノ情輕キ者ハ六月
以上五年以下ノ輕禁獄ニ處ス
第四條 宣誓解放ヲ受ケタル俘虜宣誓ニ背ク者ハ重禁獄ニ處シ其ノ宣誓ニ
背キ兵器ヲ操リ抗敵スル者ハ死刑ニ處ス
第五條 俘虜逃走セサル宣誓ヲ爲シ之ニ背ク者ハ重禁獄ニ處ス其ノ他ノ宣
誓ニ背ク者ハ輕禁獄ニ處ス
第六條 第一條乃至第三條ノ規定ハ再ヒ俘虜トナリタル者ノ前ニ俘虜タリ
シトキニ犯シタル罪ニ之ヲ適用セス
第七條 軍法會議ニ於テ俘虜ノ犯罪ヲ審判スルトキハ其ノ階級ニ應シ帝國
軍人ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第二百二十五號ハ之ヲ廢止ス

○元田肇君(百六十三番) 是モヤハリ前ノ議案ト同一ノ委員ニ付託セラレンコトヲ
希望致シマス、提出ノ理由ハ別段述べマセヌ

(花井卓藏君「此場合ニ於テ政府ガ同意スルヤ否ヤヲ聞キタイ」ト呼フ)

○議長(松田正久君) 前委員ニ付託スルト云フ動議ガアリマスガ、御異議ハアリマセ
ヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ前委員ニ付託スルト決定ヲ致シマ
ス——諸君ニ御諮リヲ致シマスガ、議員久保伴一郎君、石田實之助君ハ、何モ病氣
ノタメ、本月二十四日ヨリ一週間請假ノ申出ガアリマスガ、許可シテ御異議アリマセヌ
カ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(松田正久君) 御異議ガナケレバ許可スルト致シマス——諸般ノ報告ヲ致
シマス

(書記朗讀)

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

郡役所廢止ニ關スル建議案

提出者 佐藤虎次郎君 竹内 正志君 關口 安太郎君

寺井 純司君 持田 若佐君

萩野左門君ヨリ佐竹作太郎君外一名ニ係ル議員資格ニ對スル異議ノ申立アリタリ
指定セラレタル委員左ノ如シ

古物商取締法中改正法律案外一件

天野 重平君 梅野 初實君

田中 定吉君 牧野 元君

田口 卯吉君 米田 實君

三浦 盛徳君
荒川 五郎君
横堀 三子君

罹災救助基金法中改正法律案外一件

山田 平太郎君 菅澤 重雄君 根津 嘉一郎君
中西 六三郎君 鈴木 友次郎君 漆 昌 巖君
井上 與一郎君 中谷 宇平君 栗原 宣太郎君
市町村立小學校教育費國庫補助法及教育基金令ニ依ル沖繩縣ノ配賦金及
配當金ノ仕拂殘額ヲ翌年度ニ繰越使用ニ關スル法律案
鞍谷 清慎君 榎本 次郎右衛門君 由布 惟義君
小澤 愛次郎君 關口 安太郎君 松本 恆之助君
是永 歲太郎君 關口 精一君 山口 小一君
遠洋漁業獎勵法中改正法律案 佐藤 伊助君 島津 真知君
川島 龍藏君 柳田 藤吉君 齋藤 珪次君
村松 愛藏君 大戸 復三郎君 早速 整爾君
藤井 牧太郎君 久保田 與四郎君 遠山 正和君
巡查看守退隱料及遺族扶助料法中改正法律案外一件
澤田 耕次郎君 林 小一郎君 加瀬 禧逸君
中村 清一郎君 大久保 弁太郎君 富島 暢夫君
持田 若佐君 神崎 東藏君 鳩山 和夫君
外國ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券證券偽造變造ニ關スル法律案外一件
角田 眞平君 渡邊 修君 高梨 哲四郎君
磯部 四郎君 小林 仲次君 元田 肇君
大淵 龍太郎君 關 直 彦君 橫田 虎 彦君
俘虜刑罰法案外一件 森 肇君 辻 寛君

午後二時三十四分散會
○議長(松田正久君) 次回ノ議事日程ハ、追テ公報ヲ以テ通知ヲ致シマス、本日ハ是
ニテ散會

衆議院議事速記第七號正誤

頁段 行 誤	正	頁段 行 誤	正
一〇八上 六 歲入歳出豫算	歳入歳出總豫算	同 一四 金藏君	重藏君
一六下 五 万二千郎君	万次郎君		

衆議院議事速記第八號正誤

頁段 行 誤	正	頁段 行 誤	正
一七上一四 關清英問	關清英問	同 下一八 始終	終始